

教育・研究等業績一覧

履 歴					
フリガナ	タナカ	ヒデヒコ	性別		
氏名	田中	英彦	男	生年	1957年
所属	農学ビジネス学科		身分	農学ビジネス学科長 教授	
学 歴					
年 月	事 項				
1976年3月	埼玉県立川越高等学校卒業				
1980年3月	北海道大学農学部農学科卒業・学士				
1982年3月	北海道大学大学院農学研究科農学専攻修士課程修了・修士				
2016年3月	北海道大学学位授与・博士（農学）				
職 歴					
年 月	事 項				
1982年4月	日本サイアナミッド（株）研究部入社				
1985年8月	日本サイアナミッド（株）営業部退社				
1985年9月	北海道立上川農業試験場水稲栽培科 研究職員				
1992年4月	北海道立中央農業試験場稲作部栽培第1科 研究職員				
1998年4月	北海道立中央農業試験場稲作部 栽培第1科長				
2000年4月	北海道立中央農業試験場生産システム部 栽培システム科長				
2002年4月	北海道農政部農業改良課 主査（研究企画）				
2004年4月	北海道立中央農業試験場生産システム部 主任研究員				
2006年4月	北海道立十勝農業試験場作物研究部 主任研究員兼管理科長				
2008年4月	北海道立十勝農業試験場技術普及部 次長				
2009年4月	北海道立中央農業試験場生産研究部 副部長				
2010年4月	北海道立総合研究機構農業研究本部 企画調整部長				
2013年4月	北海道立総合研究機構花・野菜技術センター 場長				
2014年4月	北海道立総合研究機構 上川農業試験 場長				
2017年4月	拓殖大学北海道短期大学農学ビジネス学科 教授				
2019年4月	同 農学ビジネス学科長 現在に至る				
教 育 業 績					
1 担当授業科目（2019年度）					
科 目 名	出講場所	期別	曜日	時限	備 考
農業基礎実験・実習	作物実験室	通年	火/木	4, 5/4, 5	
1年ゼミナール	作物実験室	通年	水	3	
2年ゼミナール	作物実験室	通年	水	4	
キャリアスキル	ラボ室	通年	月	1	
卒論演習	圃場、実験室	通年	随時	随時	
環境科学（環境農学コース1年）	201教室	前期	金	3	
環境科学（地域振興ビジネスコース1年）	101教室	前期	月	2	
グリーン農業論（地域振興ビジネスコース2年）	101教室	前期	月	4	
グリーン農業論（環境農学コース1年）	201教室	後期	火	3	
植物資源学概論	201教室	後期	月	4	
植物資源学応用実習	作物実験室・実習棟	通期	木	1, 2	
2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価 (記述式：900字以内)	<p>1) 現行授業の目標と教育効果 環境農学コースの学生に対しては、北海道農業の直接の担い手、あるいは農業・食関連産業に関わる人材の育成、および4年制大学への編入に必要な学力の付与が目標である。加えて、地域振興ビジネスコースの学生に対しては、人類を取り巻く環境問題と、食と農の大切さ・おもしろさを伝えることが目標である。基本は、知識の詰め込みではなく、自ら科学的・論理的に考え、行動できる人材の育成である。</p> <p>環農コースの農業基礎実験においては、様々な植物の器官をしっかりと観察すること、環境に対する植物の反応はなぜ起こるのか考えること、班単位の共同作業では役割分担をしっかりと行うことを重点的に指導した。</p> <p>2) 自己評価 実習・キャリアスキル・各ゼミナール・卒論演習においては、学生個々と距離なく真摯に向き合い、的確な指導ができたと思う。各講義においては、各コース間・学生間に学力や学習意欲のレベルが異なると考えられたことから、画一的・一方的な授業ではなく、双方向型の対応が必要と考えた。しかしながら、大人数の講義では学生との対話は不十分であった。</p>				

<p>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>1) 現状の説明(長所と問題点を含む)</p> <p>学生による授業評価における総合満足度は、植物資源学概論(環農1年)3.00、植物資源応用実習(環農2年)2.92、農業基礎実験(環境農学コース)2.97と高かった科目がある一方、クリーン農業論については、環農1年2.94、地ビ2年2.77、環境科学については、環農1年2.94、地ビ1年2.65と、同一の授業でもコース間の差が大きかった。これは、学生の取り組み意欲と理系科目の基礎学力の差を反映していると思われる。</p> <p>各講義では、配布プリントに重要な用語などに空欄を設け、パワーポイントでその部分を強調し転記させる手法を取り入れた。これにより、居眠りや私語は減少し、授業アンケートなどでも授業に集中できるといった高評価も見られた。一方で、パワーポイントの進みが速く転記できない、字が小さい、転記では頭に入らない、などの不満もみられた。</p> <p>2) 改善への取り組み(実践例を含む)</p> <p>学生が授業に興味を持ち、集中して考えさせるために、次年度に向けてプリント・スライドの内容を再検討し、授業スピードを落として、学生と対話しながら授業を進めるように改善したい。</p> <p>毎回の小テストは、出席と理解度の把握ができ、質問への対応など学生との交流にも有効であることから、継続して実施する。</p>														
<p>4 教科書、教材の作成状況</p> <p>(記述式：300字以内)</p>	<p>毎授業時にA4判4頁を基本とするプリントを配布し、その内容を補足する図表や写真を含むパワーポイントを映写して授業を進めた。また、理解を促進するために、ビデオ教材も数点使用した。</p>														
<p>5 学生の指導(課外活動・厚生補導等)</p> <p>(主要10件以内)</p>	<table border="1"> <tr> <td>2017～2019年度</td> <td>硬式野球部顧問</td> </tr> <tr> <td>2017～2019年度</td> <td>eco検定の模擬試験による受験指導</td> </tr> <tr> <td>2018～2019年度</td> <td>アウトドア同好会顧問</td> </tr> <tr> <td>2018～2019年度</td> <td>吹奏楽部部員</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table>	2017～2019年度	硬式野球部顧問	2017～2019年度	eco検定の模擬試験による受験指導	2018～2019年度	アウトドア同好会顧問	2018～2019年度	吹奏楽部部員						
2017～2019年度	硬式野球部顧問														
2017～2019年度	eco検定の模擬試験による受験指導														
2018～2019年度	アウトドア同好会顧問														
2018～2019年度	吹奏楽部部員														
<p>6 その他</p> <p>(主要5件以内)</p>	<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>														
<p>研 究 業 績</p>															
<p>1 研究分野・活動</p> <p>(記述式：350字以内)</p>	<p>前職の北海道立総合研究機構農業研究本部においては、水稲湛水直播栽培技術の開発を中心として、育苗、水管理、施肥など栽培管理技術および発育ステージの予測技術の開発などを行った。研究分野は、作物学、育種学である。</p> <p>本学においては、上記の研究をさらに発展させて、地域からの要望や学生の疑問に応じて、種々のレベルの研究を実施して、その成果を北海道農業における課題解決に活かすことを務めた。</p> <p>具体的な研究領域は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 作物の品種改良に関する研究 2) 作物品種の栽培特性および品質に関する研究 3) 水稲および畑作物の省力・高品質安定生産技術の開発 4) 作物の発育ステージの予測に関する研究 														
<p>2 研究課題</p> <p>(今後の展開・可能性を含む)</p> <p>(記述式：350字以内)</p>	<p>本年度は、ゼミナール2年生の卒業演習の研究テーマとして、以下を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 催芽粃を用いた湛水直播栽培における入水時期が苗立ちと生育・収量に及ぼす影響 2) 水稲直播用品種「えみまる」の点播栽培における苗立ち本数と収量・品質の関係 3) 水稲直播用品種「えみまる」の点播栽培における刈り取り時期が収量・品質に及ぼす影響 4) 水田水温・水位センサーPaddyWatchによる深水管理の実態評価 5) 水稲薬培養におけるカルス形成に及ぼすパラフィラムの効果 6) ギョウジャニンニクにおける採種後の貯蔵条件が発芽に及ぼす影響 7) ウドにおける採種後の貯蔵条件とジベレリン処理が発芽に及ぼす影響 8) ダイズ子葉緑系統の枝豆および豆腐加工適性 <p>また、国際学部農業総合コース科目等履修生に対して、以下の研究を指導した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 寒地におけるサトイモ栽培とサトイモ粉加工食品の作製 2) テフのマルチ栽培における栽培法と系統比較及び加工品の作成について 														
<p>3 研究助成等</p> <p>(主要5件程度)</p>	<p>(1) 文部科学省科学研究費</p> <p>.....</p> <p>(2) 学内</p> <p>.....</p> <p>(3) 学外</p> <p>.....</p> <p>.....</p>														

4 資格・特許等 (主要3件以内)					
著書、学術論文、作品等の名称 (主要15件以内)		単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要 約
(著書)					
北海道の作物管理		共著	2005年11月	(株)北海道協同組合 通信社	水稲の移植栽培技術を解説。
北海道の農業気象		共著	2007年7月	(株)北海道協同組合 通信社	気象情報に基づく水稲生育の予測技術を 解説。
北海道の米づくり		共著	2011年6月	(社)北海道米麦改良 協会	北海道における水稲直播栽培技術を解 説。
(学術論文)					
中国江蘇省における水稲多収穫の事例解 析 第1報 子実生産特性		共著	1993年4月	日本作物学会記事 62 巻	F ₁ ハイブリット品種の多収性を解析。
中国江蘇省における水稲多収穫の事例解 析 第2報 倒伏関連形質の解析		共著	1993年4月	日本作物学会記事 62 巻	F ₁ ハイブリット品種の耐倒伏性を解析。
直播稲作へのチャレンジ		単著	1995年6月	農業及び園芸 70巻	北海道における直播栽培技術開発を解 説。
中国黒竜江省における水稲栽培の実態		単著	1997年10月	北農 64巻	研究交流事業で得た情報を紹介。
水稲の不稔歩合を出穂期に葯長から予測 する方法		単著	1998年10月	北農 65巻	葯長と不稔歩合の関係を示した。
湛水直播水稲における低温苗立ち性の品 種間差異と初期伸長性の関係		共著	2016年4月	日本作物学会紀事 85 巻	低温苗立ち性に優れる外国稲を見出し た。
湛水直播水稲における土壌還元処理と Pythium 属菌接種による苗立ち率低下の 品種間差異		共著	2016年4月	日本作物学会紀事 85 巻	品種の土壌還元と Pythium 属菌に対する 耐性は異なることを示した。
異なる生育時期の冷水掛け流し処理が湛 水直播水稲の出芽と苗立ちに及ぼす影響		共著	2016年7月	日本作物学会紀事 85 巻	直播稲が最も低温に弱いのは鞘葉の伸長 期であることを示した。
北海道の湛水直播水稲における出芽と苗 立ちに及ぼす土壌還元の影響と播種直後 からの落水の効果		共著	2016年7月	日本作物学会紀事 85 巻	播種後の落水処理は土壌還元の進行を抑 制し、出芽・苗立ち率を向上することを 明らかにした。
北海道での水稲湛水直播栽培の落水出芽 法における播種後の気温による最適入水 日の推定		共著	2016年7月	日本作物学会紀事 85 巻	落水出芽法における最適入水日を求める 方法を示した。
北海道の水稲直播栽培における落水出芽 法の開発(北海道大学審査学位論文)		単著	2016年9月	北海道立総合研究機 構農業試験場報告 144	北海道における湛水直播栽培落水出芽法 の有効性を明らかにした。
北海道の水稲湛水直播栽培における落水 出芽法と直播向け品種		単著	2019年1月	農業技術体系 作物 編追録 40号	落水出芽法の実際と直播向け品種の開発 状況を整理して示した。
研究業績(過去3力年分)					
著作数	論文数	学会等 発表数	その他	国際的活動 の有無	社会的活動の 有無
0	1	0	0	有	有
学 内 運 営 業 績					
1 役職、各種委員会等 (主要10件程度)		2017~2019年度		教務委員会委員	
		2017~2019年度		FD委員会委員	
		2019年度		奨学生委員会委員長	
学 外 活 動 業 績					
1 本学以外の機関(公的機 関・民間団体等)を通し ての活動 (主要10件程度)		2017年4月~現在		北海道学生野球連盟 理事	
		2017年10月~現在		深川市環境審議会委員	
		2018年4月~現在		深川市情報公開・個人情報保護審査会委員	
		2018年4月~現在		深川市消防組合行政不服審査会委員	
		2018年4月1日~現在		士別市農業応援アドバイザー	
		2019年8月8日~現在		深川市まち・ひと・しごと創生戦略推進協議会委員	
		2019年9月20日		令和元年度空知総合振興局農業農村整備事業環境情報協議会委員	
		2020年1月29日		スマート水田社会実装に向けたシンポジウム 講師	
		2020年2月7日		JA新砂川特別栽培米生産組合研修会 講師	

2 学会・学術団体等の活動 (主要 10 件程度)	1985 年～現在	日本作物学会・会員
	1980 年～現在	日本作物学会・日本育種学会北海道談話会・会員
	2013 年～現在	北海道園芸研究談話会・会員
	1995 年～現在	北海道農業普及学会・会員